

200937008A

厚生労働科学研究費補助金  
地域医療基盤開発推進研究事業

新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究  
(H19-医療-一般-009)

平成 21 年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 俣 木 志 朗

平成 22 (2010) 年 3 月

# 目 次

## I. 総括研究報告

- 新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究 ----- 1  
俣木 志朗

## II. 分担研究報告

1. 新歯科医師臨床研修制度の研修内容・研修効果に関する調査研究----- 4  
新田 浩
2. 研修歯科医のメンタルヘルス調査に関する研究----- 50  
秋山 仁志
3. 研修歯科医の分布等に関する調査研究----- 79  
平田 創一郎

総括研究報告書

新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究

研究代表者 俣木志朗（東京医科歯科大学大学院 教授）

研究要旨：平成 18 年度より歯科診療に従事しようとする歯科医師は 1 年以上の臨床研修を行うことが義務付けられた。今後、歯科医師臨床研修制度の運用、改善に向けた見直しを行うためには、経年的に歯科医師臨床研修制度に関する基礎資料を収集することが必須である。平成 18 年度、同 19 年度、同 20 年度に引き続き、必修化 4 年目における、研修歯科医、単独型・管理型臨床研修施設および協力型研修施設の指導歯科医、臨床研修プログラムを対象にして調査研究を行った。調査項目は、研修内容・研修効果、研修歯科医、新制度全般に関するアンケート調査、研修歯科医のメンタルヘルス、研修歯科医の動向、分布状況、中断・休止・再開事例の検討である。その結果、本制度の歯科医師の資質向上への貢献度について「貢献した」「少しは貢献した」と肯定的な回答をしたものは、研修歯科医では 75.4%、単独型・管理型施設では 93.3%、および協力型施設では 94.6%であった。研修歯科医のメンタルヘルスに関する調査の結果、研修歯科医全体でみた場合、健康リスクは 94 であり、ほぼ標準的な全国レベルであった。また、研修歯科医の 43.1% が「抑うつ状態」である可能性が示された。平成 21 年度採用の研修歯科医数は 2381 名であり、平成 22 年 1 月現在で、研修の中断例が 9 例、休止例が 4 例、再開例や開始遅延も数例認められた。月平均の都道府県ごとの研修歯科医数は、最大が東京都 401.1 名（17.0%）、最少が高知県 3.0 名（0.1%）であり、都市部や歯科大学・大学歯学部がある都道府県に集中する傾向が認められた。都道府県間での分布の格差は平成 20 年度との比較では、縮小した。本調査研究により歯科医師臨床研修制度の実施状況および多くの問題点が抽出され、今後の本制度の運用、改善に資する貴重な情報を収集することができた。

分担研究者

秋山 仁志（日本歯科大学附属病院 教授）  
新田 浩（東京医科歯科大学大学院 准教授）  
平田 創一郎（東京歯科大学 講師）

研究協力者

酒寄孝治（東京歯科大学）

A. 研究目的

わが国の歯科医師臨床研修制度は、昭和 62 年度に委託事業として開始され、平成 8 年度からは努力義務として実施されてきた。平成 12 年 12 月 6 日、法律 141 号の医療法等の一部を改正する法律により、努力義務であった歯科医師臨床研修が、平成 18 年 4 月 1 日より必修化された。

一方、新歯科医師臨床研修制度は、「厚生労働大臣は、省令の施行後 5 年以内（平成 22 年まで）に、省令の規定について所要の検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする」とされている<sup>1)</sup>。今後、本制度の運用、改善に向けた見直しを行うためには、新制度の現況をさまざまな側面から経年的に調査し、新制度の有効性、効率性を評価することが必要である。

このような背景から、われわれは平成 18 年度から継続して新歯科医師臨床研修制度における調査研究を行ってきた。

本制度実施 4 年目の修了時期にあたり、これまでの調査研究結果<sup>2, 3, 4)</sup>を踏まえ、研修歯科医、研修施設、研修プログラムを対象とした調査を実施した。

## B. 研究方法（詳細は各分担研究者報告を参照）

### 1. 調査対象

- ・ 研修歯科医
- ・ 単独型・管理型臨床研修施設
- ・ 協力型研修施設
- ・ 平成 21 年度に研修歯科医の募集を行ったすべての研修プログラム
- ・ 研修プログラム責任者、研修実施責任者、指導歯科医

### 2. 調査項目（詳細は各分担研究者報告を参照）

- ・ 研修内容・研修効果に関する調査
- ・ 研修歯科医のメンタルヘルス調査
- ・ 研修歯科医の分布に関する調査
- ・ 研修状況、休止例、中断例、再開例の調査

### 3. 調査方法（詳細は各分担研究者報告を参照）

本研究のアンケート調査は、厚生労働省が運営する歯科医師臨床研修プログラム検索サイト D-REIS からリンクを張った「新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究」のホームページ上で回答ができるように整備した。研修歯科医の分布に関する調査研究については、Eメール、FAX、郵送および電話回答により行った。

#### （倫理面への配慮）

ログイン時に部外者の侵入を防止するために、ログインID、パスワードを必要としたが、アンケートへの回答については研修歯科医、研修施設の自由意志で行い、強制力がないものとした。さらに回答者に不利益をもたらさないように、個人、施設の識別を不能とし、プライバシーの保護に関しては十分に配慮した。調査結果は統計値または匿名性を確保して公表することとし、資料の取り扱いについては十分な注意を払った。なお、本研究は東京医科歯科大学歯学部倫理審査委員会の承認を得て実施したものである。

## C. 研究結果

### 1. 「新歯科医師臨床研修制度の研修内容・研修効果に関する調査研究」では、研修歯科医

653名、単独型・管理型研修施設 133 施設、協力型研修施設数 259 施設から回答を得た。その結果、新制度の歯科医としての資質の向上の貢献度については、研修歯科医の結果では、「貢献した」が 21.6%、「少しは貢献した」が 53.8% の回答を得た。同様に単独型・管理型研修施設ではそれぞれ 44.4%、48.9%、協力型研修施設では 49.0%、45.6%であった。

2. 「研修歯科医のメンタルヘルス調査に関する研究」では、回答者数は 596 名（男性 349 名、女性 247 名）であった。研修歯科医全体でみた場合、健康リスクは 94 であり、健康問題が起きるリスクが全国一般の標準な集団と比較してほとんど変わらない傾向があることが認められた。また、研修歯科医の 43.1%が「抑うつ状態」である可能性が示された。

3. 研修歯科医の全国的な在籍分布状況について、230 施設 302 プログラムを対象に調査を行い、すべてから回答を得た。研修歯科医の総数は 2,381 名であった。月平均の都道府県ごとの研修歯科医数は、最大が東京都で 424 名、最小が高知県、福井県の 3 名、格差は 141.3 倍であった。歯科大学・大学歯学部がある都道府県で研修歯科医が多く分布する傾向がうかがわれた。

4. 平成 22 年 1 月現在で歯科医師臨床研修の休止例は 9 例、中断例は 4 例、再開例および開始遅延例が数例であった。

## D. 考察

1. 平成 20 年度に引き続き、研修内容、評価方法、待遇面、制度上の多くの問題点も抽出され、今後の制度の運用、改善に向けての基礎資料を得ることができた。昨年度と比較すると概ね同様の傾向が認められた。新制度の歯科医としての資質の向上の貢献度については肯定的回答の割合が前年度より増加しており、制度の実施・運用に習熟しつつあることがうかがわれた。

2. 研修歯科医のメンタルヘルス調査の結果、健康リスクはほぼ標準的であり、研修歯科医の43.1%に「抑うつ状態」がある可能性が示された。医療現場にとって、適度なストレスがよりよい歯科医師臨床研修を生み出すことも事実ではあるが、研修歯科医がストレス反応として、抑うつ状態、燃え尽き状態に陥ることがないように個別の研修環境において配慮する必要がある。

3. 研修歯科医の分布については、都道府県間の格差が最大 141.3 倍であり、昨年度 (235.4 倍) と比較して縮小したものの、分布状況の傾向には大きな変化は認められず、歯科大学・大学歯学部附属病院の募集定員の減少は、研修歯科医の分布には影響していないと考えられた。

4. 研修歯科医の地域偏在の是正のためには、今後、歯科大学・大学歯学部附属病院以外の研修施設の募集定員の増加および協力型研修施設のさらなる拡充が望まれる。

5. 研修中断が著しく減少し、採用時のマッチングや群内マッチングおよび研修実施中の指導の充実がうかがわれた。

#### E. 結論

1. 研修歯科医および指導歯科医から、歯科医師臨床研修制度は、歯科医としての資質の向上に貢献しているとの肯定的評価が得られた。
2. 新歯科医師として、また新社会人としての一步を踏み出す研修歯科医が、精神的にも身体的にも安心して研修に専念できる環境を整備し、提供することは、歯科医療界全体にとって非常に重要なことと考えられる。
3. 平成 20 年度と比較して、研修歯科医数の都道府県間の分布の格差は縮小した。
4. 研修歯科医の地域偏在の是正のためには、今

後、歯科大学・大学歯学部附属病院以外の研修施設の募集定員の増加および協力型研修施設のさらなる拡充が望まれる。

#### F. 研究発表

本研究の要旨を以下のとおり発表する予定である。  
学会発表：第 29 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会にてポスター発表予定（於：盛岡）平成 22 年 7 月 23 日、24 日）

#### G. 文献

- 1) 歯科医師法第 16 条の 2 第 1 項に規定する臨床研修に関する省令の施行について、医政発第 0628012 号、平成 17 年 6 月 28 日
- 2) 俣木志朗ら：新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査報告研究報告書(平成 19 年 3 月)平成 18 年度厚生労働科学特別研究事業
- 3) 俣木志朗ら：新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究報告書（平成 20 年 3 月）平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金医療安全・医療技術評価総合研究事業
- 4) 俣木志朗ら：新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究報告書（平成 21 年 3 月）平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業

#### H. 知的財産権の出願・登録状況 なし

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）  
分担研究報告書

新歯科医師臨床研修制度の研修内容・研修効果に関する調査研究

分担研究者 新田 浩（東京医科歯科大学准教授）

研究要旨：新歯科医師臨床研修制度に関する4年度の研修内容・研修効果、新制度全般に関するアンケート調査を研修歯科医、単独型・管理型臨床研修施設、協力型臨床研修施設を対象にウェブ上で行った。研修歯科医653名、単独型・管理型臨床研修施設133施設、協力型臨床研修施設259施設から回答を得た。その結果、新制度の歯科医としての資質の向上の貢献度に関しては、研修歯科医の結果では、「貢献した」21.6%、「少しは貢献した」53.8%との回答を得た。同様に単独型・管理型臨床研修施設で「貢献した」44.4%、「少しは貢献した」48.9%、協力型臨床研修施設で「貢献した」49.0%、「少しは貢献した」45.6%であった。新制度は歯科医としての資質の向上にいくらか貢献することが明らかとなった。また、本研究により、研修内容、評価方法、待遇面、制度上の多くの問題点も抽出され、今後の制度の運用、改善に向けての基礎資料を得ることができた。

A. 研究目的

歯科医師臨床研修制度は平成8年度から努力義務として実施されてきた。歯科臨床研修方式には、全研修期間を一つの臨床研修施設（単独型臨床研修施設）で研修する単独型方式と管理型臨床研修施設と協力型臨床研修施設で研修する群方式とに分類され、それぞれの方式で臨床研修プログラムが改善されてきている。平成18年度からは、歯科医師臨床研修制度は努力義務から必修となり、新歯科医師臨床研修制度が実施されている。本研究では新歯科医師臨床研修制度4年度（平成21年度）における研修内容・研修効果について調査・分析し、新制度の有効性を評価するとともに、今後の制度の運用、改善に向けての基礎資料を収集する。

B. 研究方法

1. 対象

平成21年度研修歯科医、および平成21年度に研修歯科医を受け入れた単独型・管理型臨床研修施設、協力型臨床研修施設

2. 調査期間とアンケート方法

厚生労働省が運営する歯科医師臨床研修プログ

ラム検索サイトD-REIS (<http://www.d-reis.org>) に登録された平成21年度の歯科医師臨床研修施設の施設長宛に、今回の「新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究」でのアンケート調査協力の依頼状を送付した。単独型および管理型臨床研修施設長には、各施設の研修歯科医に対して、アンケート調査協力の依頼状を送付した。調査期間は、平成22年2月1日から平成22年2月28日までとした。本研究のアンケート調査は、D-REISからリンクを張った「新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究」のホームページ (<http://www.drmp.jp/kenkyuhan>) 上で回答ができるように整備した。アンケートに回答する研修歯科医は、本研究班ホームページにアクセス後、アンケートリスト中の「研修歯科医の方」をクリックし、所属の臨床研修施設にあらかじめ配布したログインID、パスワードを入力の上、研修歯科医向けアンケートのページへと進む。研修歯科医向けアンケートページ中の「研修内容・研修効果に関する調査」の「アンケート開始」をクリックし、設問に回答する。すべての回答の終了後、最後に送信ボタンを押し、確認のページに進み、確認のページの最下部の送信ボタンを押して終了とする。

単独型・管理型臨床研修施設あるいは協力型臨床研修施設は研修歯科医と同様に、本研究班ホームページにアクセスし、アンケートリスト中の「単独型・管理型臨床研修施設の方」あるいは「協力型臨床研修施設の方」をクリックし、臨床研修施設にあらかじめ配布したログインID、パスワードを入力の上、「研修内容・研修効果に関する調査」の「アンケート開始」をクリックし、設問に回答する。

ログイン時に部外者の侵入を防止するために、ログインID、パスワードを必要としたが、アンケートに対する回答に関しては、研修歯科医、臨床研修施設の自由意志で行い、強制力がないものとした。さらに回答者に不利益をもたらさないように、個人の識別を不可能とし、プライバシーの保護に関しては十分に配慮した。

### 3. 質問項目

研修歯科医向けの「研修歯科医の研修の効果に関するアンケート」では新歯科医師臨床研修に関する研修内容・研修効果、新制度全般に関する選択式および自由記入式の29の質問項目を設定した。また、新歯科医師臨床研修の到達目標である基本習熟コース、基本習得コースそれぞれの項目の到達度について回答を求めた。さらに指導歯科医の指導状況に対する評価項目を設定した。質問項目の詳細については別添資料1を参照のこと。

単独型・管理型臨床研修施設向けの「単独型・管理型臨床研修施設の研修の効果に関するアンケート」では、新歯科医師臨床研修に関する研修内容・研修効果、新制度全般に関する選択式および自由記入式の27の質問項目を設定した。質問項目の詳細については別添資料2を参照のこと。

協力型臨床研修施設向けの「協力型臨床研修施設向けの研修の効果に関するアンケート」では、新歯科医師臨床研修に関する研修内容・研修効果、新制度全般に関する選択式および自由記入式の21の質問項目を設定した。質問項目の詳細については別添資料3を参照のこと。

#### (倫理面への配慮)

本研究における調査においては、アンケートの

回答には事前に送付したIDとパスワードを必要とし、集計は個人が同定できない形で行った。調査結果は統計値または匿名性を確保して公表することとし、資料の取扱については十分な注意を払った。

## C. 研究結果

### 1. 研修歯科医向けアンケート

研修内容に関するアンケートでは653名、研修の効果に関するアンケートでは594名の研修歯科医から回答を得た。「研修プログラムの研修期間」は「1年間」87.7%、「2年間」12.3%であった。「研修方式」は「単独型方式」49.9%、「群方式」50.1%であった。「臨床研修施設」は「公私立大学附属病院」51.8%、「歯学部のある国立大学附属病院」22.5%、「歯学部のない国立大学病院」9.8%、「病院歯科口腔外科」10.4%、「その他」5.5%であった。

「群方式の場合の雇用形態」は「在籍型」72.5%、「移籍型」27.5%であった。「群方式で一人の研修歯科医が研修をした協力型臨床研修施設数」は「1施設」88.0%、「2施設」10.7%であった。また、「協力型臨床研修施設での研修期間」は「4ヶ月」29.4%、「6ヶ月」25.1%であった。

「すべての研修内容を100%にしたときの、内訳」は、「自験」27.9%、「アシスト」23.6%、「見学」12.0%、「病棟研修」6.5%、「雑用」6.1%、「技工」5.7%であった。

「対患者診療」の「担当医制」は、単独型・管理型臨床研修施設で62.2%、協力型臨床研修施設で25.7%であった。「自験患者の延べ数」は単独型・管理型臨床研修施設での研修で、「0名」7.0%、「1-20名」42.3%、「21-50名」27.9%、「51名以上」22.8%であった。協力型臨床研修施設での研修では、「0名」3.7%、「1-20名」33.9%、「21-50名」25.7%、「51名以上」36.7%であった。

「診療内容別の自験ケース数」は、単独型・管理型臨床研修施設と比べ、協力型臨床研修施設で、修復、歯周治療、エンド治療、クラウン・ブリッジ、パーシャルデンチャー、コンプリートデンチャー、抜歯の全ての診療内容で多い傾向があった。

「研修記録の方式」については「研修歯科医手帳」43.4%、「ポートフォリオ」35.8%、「DEBUT」13.3%

の順であった。「評価方法」として「研修歯科医手帳」55.0%、「ポートフォリオ」46.7%、「症例検討会における発表」40.6%、ついで、「レポート」、「DEBUT」であった。「評価の適性度」に関しては、「満足している」48.2%、「不満である」11.0%、「どちらとも言えない」40.7%であった。

「臨床研修施設の設備」では、全般的に単独型・管理型臨床研修施設に比較して、協力型臨床研修施設での不満度は高かった。単独型・管理型臨床研修施設では、「図書」23.9%、「ロッカー」22.1%、「実習室」20.4%、協力型臨床研修施設では、「インターネット環境」28.4%、「研修資料・媒体」27.8%、「図書」26.3%が「不満である」であった。

「処遇」の「給与」に関しては、「10万円以上20万円未満」が単独型・管理型臨床研修施設、協力型臨床研修施設で最も多かった。「10万円未満」が単独型・管理型臨床研修施設で12.8%、協力型臨床研修施設で18.7%であった。

「研修プログラムの内容の満足度」は、「満足している」51.6%、「不満である」15.0%、「どちらとも言えない」33.4%であった。

「臨床研修プログラムの内容を充実するために必要なもの」としては「優秀な指導歯科医」、「自験主体の診療実践型研修」、「自習のできる環境整備」等があげられた。

「適切な全体の研修期間」は「1年間」73.8%、「2年間」21.0%、「その他」5.2%であった。「適切な協力型臨床研修施設での研修期間」は「6ヶ月間」が45.6%で最も多かった。

「臨床研修修了後の進路」については「大学附属病院(歯)」39.8%、「診療所」が32.2%、「未定」18.7%であった。

「臨床研修修了後の身分」については未定者を除いた割合は「勤務医」45.6%、「大学院生(臨床)」26.9%、後期研修歯科医16.0%、「専攻生・研究生等」12.2%であった。

「新制度の歯科医としての資質の向上の貢献度」に関しては、「貢献した」21.6%、「少しは貢献した」53.8%、「あまり貢献していない」21.6%、「貢献していない」3.2%であった。

「新歯科医師臨床研修の到達目標についての到達度」に関しては、基本習熟コース「(1)医療面接」

11項目の「到達している」と「ほぼ到達している」の割合の和(以下、達成度という)の平均は84.9%で、「(2)総合診療計画」の11項目の平均達成度は75.9%で、「g. 一口腔単位の治療計画を作成する。」が62.54%で最も低かった。「(3)予防・治療基本技術」の6項目の平均達成度は81.2%で、「b. 診療記録を適切に作成する」が74.9%で最も低かった。

「(4)応急処置」の3項目の平均は65.9%で、「b. 歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する基本的な治療を実践する」が54.7%で最も低かった。「(5)高頻度治療」平均68.9%で、「e. 咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実践する」が57.3%で最も低かった。「(6)医療管理・地域医療」の7項目の平均は67.4%で、「c. 地域医療に参画する」が42.3%で最も低く、ついで「b-2. 歯科衛生士等に適切に指示する」が59.7%で低かった。

基本習得コース「(1)救急処置」の6項目の平均達成度は61.8%で、「f. 二次救命処置の対処法を説明する」が44.4%で最も低かった。「(2)医療安全・感染予防」の9項目の平均達成度は77.7%で、「a. 医療安全対策を説明する」が72.2%で最も低かった。「(3)経過評価管理」の3項目の平均達成度は73.4%で、「c. 予後を予測する」が64.8%で最も低かった。「(4)予防・治療技術」の6項目の平均達成度は68.7%で、「a. 専門的な分野の情報を収集する」が63.4%で最も低かった。「(5)医療管理」の8項目の平均達成度は76.3%で、「a. 歯科医療機関の経営管理を説明する」が52.4%で最も低かった。「(6)地域医療」の4項目の平均達成度は56.3%で、「a. 地域歯科保健活動を説明する」が52.4%で最も低かった。

「指導歯科医の指導状況に対する評価」8項目の「大変良い」と「良い」の割合の和の平均達成度は82.9%で「c. 研修意欲の高め方」が74.9%で最も低かった。

自由記入式項目「単独型・管理型施設に望むこと」に関しては、①プログラムの充実、②患者数増加、③指導医数や指導能力の向上、④待遇の向上、⑤研修環境の改善、等に関する意見が多かった。

「協力型臨床研修施設に望むこと」に関しては①研修内容の充実②自験例の増加、③指導医の資質

の向上、④研修歯科医の立場、身分の理解、⑤研修環境の向上、⑥施設間の差の是正等に関する意見が多かった。

「国に望むこと」に関しては、①待遇の改善、②制度の改善、③保険点数の増点、④本制度の是非の再考、⑤歯科医師数の是正、⑥国家試験等についての意見が多かった。

他の質問項目を含め、それぞれの結果の詳細については、別添資料4、5、6を参照のこと。

## 2. 単独型・管理型臨床研修施設向けアンケート

単独型・管理型臨床研修施設 133 施設から回答を得た。「臨床研修施設の種別」は「単独型のみ」57.1%、「管理型のみ」4.5%、「単独型+管理型」14.3%、「単独型+協力型」11.3%、「管理型+協力型」9.8%、「単独型+管理型+協力型」は3.0%であった。「臨床研修施設」では「病院歯科口腔外科」39.1%、「歯学部のない大学附属病院」27.8%、「公私立歯科大学病院」10.5%、「歯学部のある国立大学附属病院」6.8%、「その他」15.8%であった。「臨床研修プログラム」は「単独型プログラム」70.7%、「群方式プログラム」29.3%であった。「臨床研修期間」は「1年間」75.9%、「2年間」24.1%であった。「群方式における協力型臨床研修施設での雇用形態」は「在籍型出向」68.2%、「移籍出向」31.8%であった。

「すべての研修内容を100%にしたときの、内訳」は、単独型臨床研修施設のみでは「座学」5%、「基礎・模型実習等」5%、「見学」9%、「アシスト」16%、「自験」29%、「病棟研修」19%であった。管理型臨床研修施設のみで「座学」4%、「基礎・模型実習等」10%、「見学」13%、「アシスト」15%、「自験」29%、「病棟研修」20%であった。単独型臨床研修施設+管理型臨床研修施設では「座学」5%、「基礎・模型実習等」5%、「見学」9%、「アシスト」21%、「自験」30%、「病棟研修」13%であった。単独型臨床研修施設+協力型臨床研修施設では「座学」9%、「基礎・模型実習等」6%、「見学」10%、「アシスト」17%、「自験」29%、「病棟研修」10%であった。管理型臨床研修施設+協力型臨床研修施設では「座学」5%、「基礎・模型実習等」7%、「見学」10%、「アシスト」22%、「自験」31%、「病棟研修」7%であった。単独型+管理型臨床研修施設+協力型臨床研修施設で

は「座学」5%、「基礎・模型実習等」7%、「見学」8%、「アシスト」17%、「自験」28%、「病棟研修」9%であった。

「評価方法」として、「症例検討会における発表」、「研修歯科医手帳」が60%以上と多く、「口頭試問」、「レポート」、「観察記録」、「DEBUT」の順で多く回答が得られた。「ポートフォリオ」を用いている施設は21.1%であった。

「指導歯科医の指導力向上のための取り組み」については、「院内FDの開催」39.9%、「院外FDへの参加」39.9%、「なし」13.1%であった。

「研修歯科医の処遇」の「給料」については、「20万円以上30万未満」が47.4%で最も多く、「10万未満」が2%あった。

「研修歯科医の進路」では、単独型臨床研修施設のうち研修した研修歯科医が一人以上進む施設は52.7%であった。また、その単独型臨床研修施設と関連した施設に研修歯科医が一人以上進む施設は15.4%であった。管理型臨床研修施設のうち研修した研修歯科医が一人以上進む施設は79%であった。また、管理型臨床研修施設の中で、その協力型臨床研修施設に一人以上研修歯科医が進む施設は28.6%、管理型臨床研修施設と関連した施設に一人以上研修歯科医が進む施設は28.6%であった。

「進路指導」を行っている施設は77.4%であり、「相談を受けた場合に知人を紹介する」42.9%、「面接」33.8%、「就職先を斡旋する窓口の設置」13.5%であった。

「研修歯科医を受け入れて良かった点」では、「指導歯科医の自己研鑽」72.9%、「日本の歯科医療向上への貢献」54.9%、「診療所の活気の向上」48.1%、「指導能力の向上」42.9%であった。

「受け入れ後の問題点」では「指導にさかれる時間」、「研修歯科医の技術レベル」、「研修歯科医の意欲・態度」、「研修歯科医の知識レベル」が40%以上であった。

「来年度の研修歯科医の受け入れについて」は「今年度より多数」10.5%、「今年度と同数」77.4%、「今年度より少数」9.0%、「受け入れない」3.0%であった。

「適切な全体の研修期間」は「1年」33.1%、「2

年」65.4%であった。

「協力型臨床研修施設での適切な研修期間」は「3-4ヶ月」33.8%、「6ヶ月」32.3%、「1ヶ月」24.8%であった。

「臨床研修プログラムの方式と研修効果について」は、「単独型方式の方が高い」30.6%、「群方式の方が高い」14.5%、「どちらともいえない」54.8%であった。

「新制度の歯科医としての資質の向上の貢献度」に関しては、「貢献した」44.4%、「少しは貢献した」48.9%、「あまり貢献していない」6.8%、「貢献していない」0.8%であった。

自由記入式項目「研修歯科医に望むこと」に関しては、①積極性、②社会人としての自覚、③歯科医師としてのプロ意識等、④自分目標への生涯研修、⑤卒前での基本の習得、⑥研修歯科医としての態度、等に関する意見が多かった。

「協力型臨床研修施設に望むこと」に関しては、①施設の特徴を生かした研修、②研修内容の充実③臨床研修施設としての自覚、等に関する意見が多かった。

「国に望むこと」に関しては①補助金の増額、③研修期間の延長、③卒前教育の充実、④制度の改善、⑤指導歯科医の負担軽減、等に関する意見が多かった。

他の質問項目を含め、それぞれの結果の詳細については、別添資料7、8、9を参照のこと。

### 3. 協力型臨床研修施設向けアンケート

協力型臨床研修施設数259施設から回答を得た。「雇用形態」は「在籍型出向」70.3%、「移籍出向」29.7%であった。

「指導歯科医数」については、「1名」49.4%、「2名」27.4%、「3名」10.8%であった。

「指定を受けている管理型施設の数」は「1施設」64.8%、「2施設」17.4%、「3施設」8.5%であり、10施設以上から指定を受けている施設が1施設あった。

「研修歯科医を派遣した管理型臨床研修施設数」は「1施設」74.5%、「2施設」17.4%、「3施設」2.7%であり、「5施設以上10施設未満」からの研修歯科医を受け入れた協力型臨床研修施設が2施設あった。

設あった。

「すべての研修内容を100%にしたときの、内訳」は、「座学」6%、「基礎・模型実習等」8%、「見学」16%、「アシスト」23%、「自験」29%であった。

「評価方法」として、「研修歯科医手帳」、「口頭試問」が50%以上で用いられ、ついで、「症例検討会における発表」、「観察記録」、「ポートフォリオ」、「レポート」の順であった。

「指導歯科医の指導能力向上のための取り組み」は「院内FDの開催」49.5%、「管理型FDへの参加」26.3%、「管理型以外のFDへの参加」20.5%であった。

「臨床研修に関する情報収集の手段」は「管理型臨床研修施設」79.2%、「インターネット」40.9%、「他の協力型臨床研修施設」37.8%が高かった。

「研修歯科医の処遇」の「給料」については、「10万円以上20万未満」が68.7%で最も多く、「10万円未満」が13.1%あった。「社会保険に未加入」33.6%、「労働保険に未加入」が31.3%あった。

「研修歯科医の進路」では、協力型臨床研修施設で研修した研修歯科医がそこに一人以上残る施設は30%であり、管理型を除く他の関連した施設に一人以上残る施設は20.8%であった。

「研修歯科医を受け入れて良かった点」としては、「指導歯科医の自己研鑽」78.0%、「診療所の活気の向上」69.5%、「日本の歯科医療向上への貢献」56.0%、「指導能力の向上」52.18%、「管理型臨床研修施設との交流」47.9%、であった。

「受け入れ後の問題点」では「研修歯科医の技術レベル」が56.0%、「患者との信頼関係」が47.5%、「事務手続きの煩雑さ」が44.8%であった。

「来年度の研修歯科医の受け入れについて」は「今年度より多数」14.3%、「今年度と同数」73.0%、「今年度より少数」8.9%、「受け入れない」3.9%であった。

「適切な研修期間」は「1年」72.6%、「2年」24.3%であった。

「協力型臨床研修施設での適切な研修期間」は「6ヶ月」43.2%、「1年間」22.8%、「3-4ヶ月」17.8%であった。

「新制度の歯科医としての資質の向上の貢献」

に関しては、「貢献した」49.0%、「少しは貢献した」45.6%、「あまり貢献していない」3.9%、「貢献していない」1.5%であった。

自由記入式項目「研修歯科医に望むこと」に関しては、①積極性、②歯科医師としての自覚、③社会人としての自覚④自分の目標への生涯研修、⑤患者への感謝の気持ち、⑥謙虚さ、⑦基本的な知識、技術は卒前に習得、等に関する意見が多かった。

「管理型臨床研修施設に望むこと」に関しては、①卒前・初期研修の充実、②情報提供、③社会人としての教育、④事務手続きの煩雑さ、⑤協力型研修施設と研修歯科医のマッチング、等に関する意見が多かった。

「国に望むこと」に関しては、①補助金の増額、②研修歯科医の給料アップ、③事務手続きの簡素化、④本制度の是非、⑤卒前教育の充実、⑥協力型臨床研修施設へのインセンティブ（保険点数の増点等）、⑦研修期間の延長、等に関する意見が多かった。

他の質問項目を含め、それぞれの結果の詳細については、別添資料10、11、12を参照のこと。

#### D. 考察

平成18年度から新歯科医師臨床研修制度が実施され、4年度が終わろうとしている。本研究は新歯科医師臨床研修制度の初年度における研修内容・研修効果について調査・分析し、新制度の有効性を評価するとともに、今後の制度の運用、改善に向けての基礎資料を収集することを目的とした。

今回のアンケートの期間に関しては、本来、年度が終了する3月31日以降に行う所であるが、研修が終了すると、研修歯科医がそれぞれの進路に進むため、連絡が取れなくなるため、本報告書では3月31日以前で、なおかつ、データ分析に必要な時間がとれる、平成22年2月1日から2月28日までの28日間をアンケート期間とした。28日間で研修歯科医653名から回答を得られた。平成22年度の研修歯科医総数は2,381名であることから回収率は27.4%であった。平成19年度の回収率は16.9%、平成20年度40.1%であったことから、今

年度の回収率は過去2年間と比較してその中間と言える<sup>1,2)</sup>。単独型・管理型臨床研修施設133施設、協力型臨床研修施設259施設から回答を得られ、単独型・管理型臨床研修施設は昨年度より多くの施設から回答が得られたが、協力型臨床研修施設の回答数は少なかった。

研修歯科医のアンケート結果では、「研修方式」は単独型方式49.9%、群方式50.1%であり、昨年度は単独型方式48%、群方式52%であり、ほぼ同じだった。

「所属する臨床研修施設」では「公私立大学附属病院」51.8%（平成20年度59.5%）、「歯学部のある国立大学附属病院」22.5%（同20.0%）、「歯学部のない国立大学病院」9.8%（同8.7%）、「病院歯科口腔外科」10.4%（同7.6%）、「その他」5.5%（同4.3%）であった。平成20年度と比較すると公私立大学附属病院の割合が減り、病院歯科口腔外科の割合が増加した。

「すべての研修内容を100%にしたときの、各研修内容の割合」に関する研修歯科医のアンケート結果では、「自験」27.9%、「アシスト」23.6%、「見学」12.0%、「技工」5.7%、「雑用」6.1%、で自験が少ないことは否めなかった。また、単独型臨床研修施設では「自験:29%」、「病棟研修:19%」、管理型臨床研修施設では「自験:29%」、「病棟研修:20%」、協力型臨床研修施設では「自験:29%」、「アシスト:23%」が高い傾向にあった。

「对患者診療」では、協力型臨床研修施設では、担当医制である割合は、単独型・管理型臨床研修施設（62.2%）に比べ、25.7%と少ないが、「自験患者数」、「自験症例数」では、単独型・管理型臨床研修施設に比べ、協力型臨床研修施設で多いように思われた。

「研修記録の方式」については主として「研修歯科医手帳」、「ポートフォリオ」であった。また、「評価方法」に関しては、研修歯科医は「研修歯科医手帳」、「ポートフォリオ」、「症例検討会における発表」の順であった。単独型・管理型臨床研修施設では、「症例検討会における発表」、「研修歯科医手帳」、協力型臨床研修施設では「研修歯科医手帳」、「口頭試問」であった。

「評価の適性度」に関する研修歯科医のアンケ

ート結果では、「満足している」48.2%、「不満である」11.0%、「どちらとも言えない」40.7%であり、満足しているとは言えなかった。

評価方法、評価基準について、研修歯科医にあらかじめ周知することが必要性が示唆された。

「研修施設の設備等」では、単独型・管理型臨床研修施設に比較して、全般的に協力型臨床研修施設での不満度が高かった。協力型臨床研修施設での設備等の向上には、管理型研修施設あるいは国からの補助が必要と思われる。

「研修歯科医の処遇」については、給料、交通費、残業手当、社会保険、労働保険、住宅手当の取り扱いに臨床研修施設間でばらつきがあり、研修歯科医にも不公平感があり、全国统一された条件とするなどの必要性があると思われる。

「臨床研修プログラムの内容を充実するために必要なもの」としては「優秀な指導歯科医」、「自験主体の診療実践型研修」、「自習のできる環境整備」等があげられた。

「適切な研修期間」に関しては、研修歯科医のアンケート結果では、「1年」73.8%、「2年」21.0%、「その他」5.2%であり、単独型・管理型臨床研修施設のアンケート結果では、「1年」33.1%、「2年」65.4%、協力型臨床研修施設のアンケート結果では、「1年」72.6%、「2年」24.3%であった。研修歯科医と協力型臨床研修施設は類似した結果であり、卒直後研修の期間は1年で良いという意見が多かった。これは早く歯科医として独り立ちしたいという気持ちが強いこと、あるいは1年間で満足した研修ができたこと、あるいは満足していない場合は、同じ研修を2年継続しても仕方がないと思うことに由来するのかもしれない。一方、単独型・管理型臨床研修施設では、研修させたい内容が多く、一年間では不十分と考えていることが示唆され、昨年度の単独型・管理型臨床研修施設のアンケート結果では、「2年」54.6%であり、研修期間の延長を希望する単独型・管理型臨床研修施設が増加傾向であることが示された。

「新歯科医師臨床研修の到達目標についての到達度」に関しては、基本習熟コース「(1)医療面接」で、平均達成度84.9%、「(2)総合診療計画」で75.9%、「(3)予防・治療基本技術」81.2%、「(4)応急処置」

65.9%、「(5)高頻度治療」68.9%であった。「(6)医療管理・地域医療」は67.4%だった。「(4)応急処置」、「(6)医療管理・地域医療」、「(5)高頻度治療」は平均達成度が低かった。これは、研修中に遭遇する機会が少ないことによると考えられる。

基本習得コースでは「(1)救急処置」61.8%、「(2)医療安全・感染予防」77.4%、「(3)医療評価管理」73.4%、「(4)予防・治療技術」68.7%、「(5)医療管理」76.3%で「(6)地域医療」56.8%であり、「(6)地域医療」、「(1)救急処置」の平均達成度が低かった。この理由として、研修中に遭遇する機会が少ないことがあげられる。こういった機会に多く遭遇する協力研修施設での研修を追加する必要性が示唆された。

「研修プログラムの内容の満足度」に関しては、研修歯科医のアンケート結果では、「満足している」51.6%、「不満である」15.0%、「どちらとも言えない」33.4%であり、研修プログラムの改善の必要性が示唆された。

「研修修了後の進路」では、研修した単独型・管理型臨床研修施設あるいは協力型臨床研修施設に残る割合が多く、本研修が2年次以降の研修にも強く影響することが示唆された。

「新制度の歯科医としての資質の向上の貢献度」に関しては、研修歯科医では、「貢献した」21.6%、「少しは貢献した」53.8%、「あまり貢献していない」21.6%、「貢献していない」3.2%であった。一方、単独型・管理型臨床研修施設、協力型臨床研修施設ではそれぞれ「貢献した」44.4%、49.0%、「少しは貢献した」48.9%、45.6%、「あまり貢献していない」6.8%、3.9%、「貢献していない」0.8%、1.5%であった。新制度の歯科医としての資質の向上の貢献度の評価は研修歯科医ではやや低かったが、新歯科医師臨床研修制度は、研修歯科医、臨床研修施設の両者に、歯科医師としての資質の向上にある程度の貢献は認められていることが示唆された。

## E. 結論

新歯科医師臨床研修制度の4年度の終了間近に、研修歯科医、単独型・管理型臨床研修施設、協力型臨床研修施設を対象に、新臨床研修に関する研

修内容・研修効果、新制度全般に関するアンケート調査をウェブ上で行った。その結果、研修歯科医、単独型、管理型、協力型臨床研修施設すべてから、新制度は歯科医としての資質の向上にいくらかの貢献があったとの回答が得られた。

また、研修内容、評価方法、待遇面、制度上の多くの問題点も抽出され、今後の制度の運用、改善に向けての基礎資料を得ることができた。

#### F. 研究発表

学会発表：第29回日本歯科医学教育学会総会・学術大会にて発表予定（平成22年7月23,24日 於：盛岡市）

#### G. 文献

1) 俣木志朗ら：新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査報告書（平成20年3月）平成19年度厚生労働科学医療安全・医療技術評価総合研究事業

2) 俣木志朗ら：新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査報告書（平成21年3月）平成20年度厚生労働科学医療安全・医療技術評価総合研究事業

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

別添資料 1

研修歯科医の研修内容に関するアンケート

研修歯科医向けの研修内容に関するアンケートです。研修歯科医以外の方は、本研究班のトップページからアンケートを選択しおこなってください。

Q1 臨床研修プログラムの研修期間を回答ください(必須)

- 1年間
- 2年間

Q2 研修方式を回答ください(必須)

- 単独型
- 群方式

Q3 臨床研修施設(群方式の場合は管理型臨床研修施設)を回答ください(必須)

- 公私立歯科大学附属病院
- 歯学部のある国立大学附属病院
- 歯学部のない大学附属病院
- 病院歯科口腔外科
- その他

Q4 「群方式」と答えた方に質問です。

Q4 群方式の場合、協力型臨床研修施設での雇用形態を回答ください(必須)

- 在籍型出向
- 移籍出向

Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。

Q5 群方式の場合、研修した協力型臨床研修施設の数と研修期間を回答ください

Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。

Q5-1 (必須)

管理型臨床研修施設 \_\_\_\_\_ ヶ月間

Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。

Q5-2 (必須)

協力型臨床研修施設 \_\_\_\_\_ ヶ月間

Q6 すべての研修内容を100%として、各研修内容の時間ベース%を回答ください(必須)

- 1. 座学 \_\_\_\_\_ %
- 2. 基礎・模型実習等 \_\_\_\_\_ %
- 3. 見学 \_\_\_\_\_ %
- 4. アシスト \_\_\_\_\_ %
- 5. 自験(自分で実際に診療をすること) \_\_\_\_\_ %
- 6. 勉強会・講習会・学会等 \_\_\_\_\_ %
- 7. 訪問診療・地域医療研修 \_\_\_\_\_ %
- 8. 病棟研修 \_\_\_\_\_ %

- 9. 技工 \_\_\_\_\_ %
- 10. 雑用 \_\_\_\_\_ %
- 11. その他 \_\_\_\_\_ %

Q6-1 Q6のその他に1%以上と回答された方は、研修内容を記入してください。

Q7、Q8、Q9は、単独または管理型臨床研修施設での研修の自験例について回答ください。

Q7 对患者診療について回答ください(必須)

- 担当医制である
- 一部担当医制である
- 担当医制でない

Q8 自験患者延べ数について回答ください(必須)

- 0名
- 1~20名
- 21~50名
- 51名以上

Q9 自験ケース数について回答ください(必須)

- |              |                       |                       |                       |                       |
|--------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 修復           | 0                     | 1~5                   | 6~10                  | 11以上                  |
| 歯周治療         | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| エンド治療        | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| クラウン・ブリッジ    | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| パーセナルデンチャー   | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| コンプリーテンデンチャー | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 抜歯           | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。

Q10、Q11、Q12は、協力型臨床研修施設での研修の自験例について回答ください。

Q10 对患者診療について回答ください(必須)

- 担当医制である
- 一部担当医制である
- 担当医制でない

Q11 自験患者延べ数について回答ください

- 0名
- 1~20名
- 21~50名

- 51名以上
  - 11以上
  - 6~10
  - 1~5
  - 0
- Q12 自験ケース数について回答ください
- 修復
  - 歯周治療
  - エンド治療
  - クラウン・ブリッジ
  - パーシャルデンチャー
  - コンプリートデンチャー
  - 抜歯
- Q13 研修記録の方式について選択してください(1個以上必須)
- 研修歯科医手帳
  - ポートフォリオ
  - DEBUT
  - なし
  - その他:

- Q14 臨床研修施設での評価方法を選択してください(1個以上必須)
- 研修歯科医手帳
  - ポートフォリオ
  - DEBUT
  - 観察記録
  - 口頭試問
  - OSCE
  - レポート
  - 症例検討会・院内勉強会等における発表
  - なし
  - その他:

- Q15 評価の適正度について回答ください(必須)
- 満足している  不満である  どちらとも言えない
- 適性度
- Q16 単独型・管理型臨床研修施設の設備等について回答ください(必須)
- 満足している  不満である  どちらとも言えない
- 図書
- 研修資料・媒体

- Q17 協力型臨床研修施設の設備等について回答ください(必須)
- 満足している  不満である  どちらとも言えない
- 図書
- 研修資料・媒体
- インターネット環境
- ロッカー
- 控え室
- 技工室
- セミナー室
- 実習室
- 周囲の環境
- 利便性

- Q18 単独型・管理型臨床研修施設での処遇について回答ください
- Q18-1 給与(月額を円単位で回答ください。)(必須)
- 円(税込み)
- Q18-2 交通費の支給(必須)
- 有  一部有  無
- Q18-3 残業手当(必須)
- 有  一部有  無
- Q18-4 社会保険の加入(必須)
- 有  無
- Q18-5 労働保険の加入(必須)
- 有  無
- Q18-6 住宅または住宅手当(必須)
- 有  無
- 円

1ヶ月間 3-4ヶ月間 6ヶ月間 8ヶ月間 1年間

Q24 臨床研修終了後の進路について回答ください

Q24-1 施設種別(必須)

- 大学附属病院(歯)(大学院を含む)
- 大学附属病院(医)(大学院を含む)
- 病院歯科口腔外科
- 診療所
- 未定
- その他:

Q24-1にて「未定」と答えた方以外に質問です。

Q24-2 都道府県名(必須)

Q24-1にて「未定」と答えた方以外に質問です。

Q24-3 臨床研修終了後の身分(1個以上必須)

- 勤務医
- 大学院生(臨床)
- 大学院生(基礎)
- 専攻生・研究生等
- 研修医(後期)
- 未定
- その他:

Q24-1にて「未定」と答えた方以外に質問です。

Q24-4 ここに決めた理由(1個以上必須)

- 専門性
- さらなる研修
- 施設長(院長)の人柄
- 診療システム
- 処遇
- 通勤の利便性
- しがらみ・なりゆき
- その他:

Q24-5 進路に関する情報収集の手段(1個以上必須)

- 母校
- 単独型・管理型臨床研修施設の求人案内・紹介

無

Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。

Q19 協力型臨床研修施設での処遇について回答ください

Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。

Q19-1 給与(月額を円単位で回答ください。)(必須)

円(税込み)

Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。

Q19-2 交通費の支給(必須)

有  一部有  無

Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。

Q19-3 残業手当(必須)

有  一部有  無

Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。

Q19-4 社会保険の加入(必須)

有  無

Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。

Q19-5 労働保険の加入(必須)

有  無

Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。

Q19-6 住宅または住宅手当(必須)

有  無

円

Q20 臨床研修プログラムの満足度について回答ください(必須)

満足している 不満である どちらともいえない

満足度

Q21 臨床研修プログラムの内容を充実させるために必要なものを記載してください

Q22 適切な全体の臨床研修期間について回答ください(必須)

1年  2年  その他:

Q2にて「群方式」と答えた方に質問です。

Q23 適切な協力型臨床研修施設での研修期間について回答ください(必須)

## 研修歯科医の研修効果に関するアンケート

研修歯科医向けの研修効果に関するアンケートです。研修歯科医以外の方は、本研究班のトップページからアンケートを選択しないでください。

新歯科医師臨床研修の到達目標について、それぞれの到達度についてお答え下さい。

Q1 1 歯科医師臨床研修＜基本習熟コース＞ (1) 医療面接

	到達している	ほぼ到達している	どちらかといえば到達していない
a. コミュニケーションスキルを実践する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 病歴(主訴、現病歴、既往歴及び家族歴)聴取を的確に行う。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b-1. 患者の訴えを傾聴する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b-2. 患者の訴えを順序立てて誘導する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 病歴を正確に記録する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 患者の心理・社会的背景に配慮する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
e. 患者・家族に必要な情報を十分に提供する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
f. 患者の自己決定を尊重する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
g. 患者のプライバシーを守る。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
h. 患者の心身におけるQOL (Quality of Life) に配慮する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
i. 患者教育と治療への動機付けを行う。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q2 1 歯科医師臨床研修＜基本習熟コース＞ (2) 総合診療計画

	到達している	ほぼ到達している	どちらかといえば到達していない
a. 適切で十分な医療情報を収集する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
a-1. 必要な医療情報を列挙する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
a-2. 医療情報を十分に収集する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 基本的な診察・検査を実践する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

協力型臨床研修施設の紹介

知人の紹介

歯科雑誌の募集広告

歯科業界就職幹旋会社

インターネット

なし

その他:

Q25 将来、協力型臨床研修施設としての研修歯科医の受け入れについて回答ください(必須)

受け入れたい

受け入れない

どちらとも言えない

Q26 新歯科医師臨床研修の歯科医師の資質の向上への貢献度について回答ください(必須)

貢献した

少し貢献した

あまり貢献していない

貢献していない

Q27 単独型・管理型臨床研修施設に望むことを記載してください

Q28 協力型臨床研修施設に望むことを記載してください

Q29 国に望むことを記載してください

ご協力ありがとうございました。確認ボタンをクリックしてください。。  
回答内容を取り消したい場合には本研究班のトップページから再度ログインしてください。

確 認

	到達している	ほぼ到達している	どちらかといえば到達していない	到達していない
c. 基本的な診察・検査の所見を判断する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 得られた情報から診断する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
e. 適切と思われる治療法及び別の選択肢を提示する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
e-1. 適切な治療法を選択する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
e-2. 妥当な治療法をすべて患者に提示する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
f. 十分な説明による患者の自己決定を確認する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
g. 一口腔単位の治療計画を作成する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q3 1 歯科医師臨床研修<基本習熟コース> (3) 予防・治療基本技術

	到達している	ほぼ到達している	どちらかといえば到達していない	到達していない
a. 基本的な予防法の手法を実施する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 基本的な治療法の手法を実施する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 医療記録を適切に作成する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 医療記録を適切に管理する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d-1. 個人情報適切に配慮する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d-2. 医療記録を管理する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q4 1 歯科医師臨床研修<基本習熟コース> (4) 応急処置

	到達している	ほぼ到達している	どちらかといえば到達していない	到達していない
a. 疼痛に対する基本的な治療を実施する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する基本的な治療を実施する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 修復物・補綴装置等の脱離と破損及び不適合に対する適切な処置を実施する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q5 1 歯科医師臨床研修<基本習熟コース> (5) 高頻度治療

	到達している	ほぼ到達している	どちらかといえば到達していない	到達していない
a. う蝕の基本的な治療を実施する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 歯髄疾患の基本的な治療を実施する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 歯周疾患の基本的な治療を実施する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 抜歯の基本的な処置を実施する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
e. 咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実施する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q6 1 歯科医師臨床研修<基本習熟コース> (6) 医療管理・地域医療

	到達している	ほぼ到達している	どちらかといえば到達していない	到達していない
a. 保険診療を実施する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
a-1. 保険診療について説明する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
a-2. 適切な保険診療を実施する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. チーム医療を実施する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b-1. 他の歯科医師・歯科衛生士等と常に情報交換する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b-2. 歯科衛生士等に適切に指示する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 地域医療に参画する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q7 2 歯科医師臨床研修<基本習熟コース> (1) 救急処置

	到達している	ほぼ到達している	どちらかといえば到達していない	到達していない
a. バイタルサインを観察し、異常を評価する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 服用薬剤の歯科診療に関連する副作用を説明する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 全身疾患の歯科診療上のリスクを説明する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 歯科診療時の全体的合併症への対処法を説明する。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- e. 一次救命処置を実践する。
- f. 二次救命処置の対処法を説明する。

Q8 2 歯科医師臨床研修<基本習得コース> (2) 医療安全・感染予防

- |                       |                       |                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 到達している                | ほぼ到達している              | どちらかといえば到達していない       | 到達していない               |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
- a. 医療安全対策を説明する。
  - b. アクシデント及びインシデントを説明する。
    - b-1. 医療事故について説明する。
    - b-2. ヒヤリ・ハットについて説明する。
  - c. 医療過誤について説明する。
  - d. 院内感染対策 (Standard Precautions を含む)を説明する。
  - e. 院内感染対策を実践する。
    - e-1. 常に感染防止に配慮する。
    - e-2. 感染防止対策を実践する。

Q9 2 歯科医師臨床研修<基本習得コース> (3) 経過評価管理

- |                       |                       |                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 到達している                | ほぼ到達している              | どちらかといえば到達していない       | 到達していない               |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
- a. リコールシステムの重要性を説明する。
  - b. 治療の結果を評価する。
  - c. 予後を推測する。

Q10 2 歯科医師臨床研修<基本習得コース> (4) 予防・治療技術

- |                       |                       |                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 到達している                | ほぼ到達している              | どちらかといえば到達していない       | 到達していない               |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
- a. 専門的な分野の情報を収集する。
    - a-1. 積極的に情報を求める。
    - a-2. 求める情報を検索する。

- b. 専門的な分野を体験する。
- c. POS (Problem Oriented System) を説明する。
- d. EBM (Evidence Based Medicine) を説明する。

Q11 2 歯科医師臨床研修<基本習得コース> (5) 医療管理

- |                       |                       |                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 到達している                | ほぼ到達している              | どちらかといえば到達していない       | 到達していない               |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
- a. 歯科医療機関の経営管理を説明する。
  - b. 常に、必要に応じた医療情報の収集を行う。
  - c. 適切な放射線管理を実践する。
    - c-1. 患者、医療従事者等の被曝に配慮する。
    - c-2. 放射線防護を実践する。
  - d. 廃棄物を適切に処理する。
    - d-1. 廃棄物を分別する。
    - d-2. 感染性廃棄物を安全に取り扱う。

Q12 2 歯科医師臨床研修<基本習得コース> (6) 地域医療

- |                       |                       |                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 到達している                | ほぼ到達している              | どちらかといえば到達していない       | 到達していない               |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
- a. 地域歯科保健活動を説明する。
  - b. 歯科訪問診療を説明する。
  - c. 歯科訪問診療を体験する。
  - d. 医療連携を説明する。

Q13 指導歯科医の指導状況に対する評価

- |                       |                       |                       |                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 大変良い                  | 良い                    | 悪い                    | 大変悪い                  | 評価不能                  |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
- a. 基本的手技、術式の指導
  - b. 考え方の指導 (治療計画の立案、治療結果

別添資料 2

単独型・管理型臨床研修施設の研修内容・研修効果に関するアンケート

単独型又は管理型臨床研修施設向けの研修内容・研修効果に関するアンケートです。協力型臨床研修施設の方は本研究班のトップページから協力型臨床研修施設向けのアンケートを選択しなおしてください。

- の評価、予後の推測など
- c. 研修意欲の高め方(自分の指運に責任を持つ、研修歯科医のやる気を出させる)
- d. 研修歯科医を取り巻く状況への配慮
- e. 指運を受けた歯科医療の水準(診断, 治療の水準)
- f. 医療安全・感染予防に対する指導
- g. 患者・家族との接し方に対する指導
- h. コミュニカルスタッフとの連携に関する指導

ご協力ありがとうございます。確認ボタンをクリックしてください。回答内容を取り消したい場合には本研究班のトップページから再度ログインしてください。

確認

Q1 臨床研修施設番号を回答ください(必須)

臨床研修施設番号: \_\_\_\_\_

Q2 臨床研修施設の種別を回答ください(必須)

- ① 単独型臨床研修施設のみ
- ② 管理型臨床研修施設のみ
- ③ 単独型臨床研修施設+管理型臨床研修施設
- ④ 単独型臨床研修施設+協力型臨床研修施設
- ⑤ 管理型臨床研修施設+協力型臨床研修施設
- ⑥ 単独型臨床研修施設+管理型臨床研修施設+協力型臨床研修施設

Q3 臨床研修施設(群方式の場合は管理型臨床研修施設)を回答ください

- ① 公立歯科大学附属病院
- ② 歯学部のある国立大学附属病院
- ③ 歯学部のない大学附属病院
- ④ 病院歯科口腔外科
- ⑤ その他 \_\_\_\_\_

Q4 臨床研修プログラム数、定員、及び、受入れ数を回答してください。

単独型 \_\_\_\_\_ プログラム、 定員 \_\_\_\_\_ 人、受入れ数 \_\_\_\_\_ 人  
 群方式 \_\_\_\_\_ プログラム(管理型臨床研修施設のみ回答ください。)、定員 \_\_\_\_\_ 人、受入れ数 \_\_\_\_\_ 人

Q5 臨床研修プログラムの研修期間を回答ください(必須)

- ① 1年間
- ② 2年間

Q6 指導歯科医総数を回答ください(必須)

\_\_\_\_\_ 人

Q2にて「管理型臨床研修施設」含む回答(2.3.5.6)をされた方に質問です。

Q7 貴施設の指定を受けている協力型臨床研修施設総数を回答ください

\_\_\_\_\_ 施設

Q2にて「管理型臨床研修施設」含む回答(2.3.5.6)をされた方に質問です。

Q7-1 Q7のうち平成21年度に研修歯科医を受け入れた協力型臨床研修施設数

\_\_\_\_\_ 施設

Q2にて「管理型臨床研修施設」含む回答(2.3.5.6)をされた方に質問です。

Q8 協力型臨床研修施設での研修歯科医の雇用形態を回答ください(1個以上必須)